

令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 大蔵 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和3年6～7月に、2年生を対象として、「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。運動習慣は、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本年度、本市においては「体力・運動能力」についての調査は実施していません。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 本市における調査内容

(1) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

※ 本校の2年生は、単学級ですので、個人が特定されるような公表の方法については、配慮しています。

3. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析

質問紙調査では、運動への関心・意欲が高く、その理由として、「友達や仲間と一緒に活動できる」と回答した生徒が多かった。そして、「できないことができるようになったきっかけ」では、「友達に教えてもらった」と回答した生徒が多いことから、保健体育の授業におけるグループ活動の活性化が見られる。課題としては、コロナ禍における、学校外での運動時間の確保と保健体育の時間において、自分に合った練習や環境を自分なりに選んで活動できるようになることがあげられる。苦手なことも失敗を恐れずに挑戦する意欲の喚起や生涯スポーツという観点から、望ましい運動習慣の定着を目指した啓発活動の活性化が必要である。

4. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で)

- ・ファシリテータ役を設定することで、グループ活動における効率的、効果的な取組を推進する。
- ・ICT機器の活用により、自ら課題を可視化、他人と共有化しながら、課題克服のための意欲を喚起する。
- ・ユニバーサルデザインの視点を掲示物等に取り入れ、運動に取り組みやすい環境を整備する。
- ・生徒の発案による体力向上のための補強運動を取り入れるなど、主体性を培う活動を促進する。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

体力テストの結果について、自己分析をシステム化する。データをグラフ化するなど明瞭化し、目標を設定し、その克服に向けた活動ができる環境について考え、そこを基軸に主体的で自発的な取り組みができる活動を実践していく。さらに、運動習慣の定着や体力の向上を目指し、デジタルコンテンツを用いたトレーニング方法の紹介など、学校外で運動する時間の確保について、意図的、計画的な取組を促進していく。